

第 35 回献体実務担当者研修会参加報告

報告日 2017 年 11 月 27 日

医学系部門 基礎社会医学班 清水伸輝

1.はじめに（目的等）

全国の献体処置に携わる職員（教員、技術員、事務員）や篤志会会員が参集し、実務を行う上での問題点、改善方法について意見交換を行う会であり、これらに参加し、献体処置やそれを取り巻く全国の状況に関する情報を得る事を目的とする。

2. 期間・場所

期間：2017 年 11 月 24 日（金）

場所：愛媛大学城北キャンパス 総合情報メディアセンター1Fメディアホール

3.参加者等

献体処置に携わる職員（教員、技術員、事務員） 約 140 人

4.研修内容

講演「手術手技研修に関して増加する新たな実務負担」、「臨床応用解剖実習の実施と課題」、「医学部保健学科で行える解剖学教室の協力」の3題の講演が発表された。

5. まとめと感想

今回の実務担当者研修会では、各大学での医学科歯学科以外での臨床解剖実習についての取り組みや実施報告がなされた。

実施をする上で日程調整が難しく勤務時間外（土日）で行っている点が解剖学教室や技術員の負担となっている事が見受けられている。今後の取り組み方としては教員・技術員の負担軽減を考える事が検討された。

これから私自身、献体業務をしながら知識の取得のレベルアップに励みながら、医歯解剖実習またはコメディカル・臨床実習で使用する御遺体を提供していきたい。